



スキー漫筆

松野尾生

アサヒグラフのスキー特
別號が出たので早速朝日專
賣店に問合せたら「買切
れのこと、スキーファン
とカメラマンの仕業であ
らうが、同じ病にとりつか
れた僕にはびくびくしな
い。スキーは冬の暖いもの
で、冬は冬の暖いもの、
雪の代りに雨が降るのは腹
立たしく、憂鬱の限りであ
る。今年も暖かくて結構で
す。」「と挨拶されれば、こ
れも人情と御世辭で然るべ
く相違は打つもの、内心
大して結構とは思つてはな
ない。何のだからか、雪は
何の気かかると云つても
年の瀬の財布は格別として
その次は沼尻に雪が積つた
かどうかである。年の瀬は
「越されず」に越す。昔から
定つてゐるから良いやうな
もの、雪が無くてもスキー
は出来ない。空を仰いで
温泉宿のおやちと一緒にお
もんでゐるのだから時に
我作ら御苦勞さんである
毎朝の新聞も、記事であ
らうが廣告であらうが、此
頃一番先に眼の中に飛込ん
で来るのは「スキー」の三
文字である。五色と沼尻の
積雪が五センチになつたか
と思つたら、次は雨で十七

童話の指導的精神

上

最近一世の間、産業及
「學の進歩は他の一切の
超越したものである」
と童話に關する一切
的、法制的
兒童教育に關するあり
人々、すべて社會の
人々、すべて社會の
人々、すべて社會の

今日の訓へ

署名 山人

夜更けに頻りに犬のなき
聲がする、おきて見るとお
隣の「マル」である、こ
奴やかましいとしかりつけ
れば尾をふりふりなきやま
ぬ、サテはあやしむとた
ぬ、

夕暮の町

小野 碧士

我町早くも夕暮
西の空にはきらきらと
ぬ、

しらべを句抄

泥鉢庭に乾くや黄水仙
温泉旅の登を凝てり春の雷
翠々の音あり山家春の水
山彦の遠雷に應へけり
遠山野火あり人の動くあり
歌聲に揺れゆく船や春の水
磯野道地際小石積まれあり

星は輝く日は沈む
町は煙で薄暗い
町の電燈つき始め
燈もけむつてゐる様だ
益々暗くなつて来る
畫の面影何も無し
空を眺め我町も
夜のどろどろ見え
唯鐵道の電燈が
寂しく附近をさしてらす
夕暮せまる揚土で
からかせあびて我は見つ
躍進せんとする町は
今静かに寝らんぞ

高橋是清

小 説

高橋是清 (200)
松浦泉三郎作
佐々木今朝吉書
齊藤・岡田 (四)



高橋是清 (200)
松浦泉三郎作
佐々木今朝吉書
齊藤・岡田 (四)

り、氣をつける。何のこ
その官僚のフアンシヨの内
は、その大きな建物
の反響におびえな
から、また他の遠く犬
もこれをホームに受けて吠
えて居るのに過ぎなかつた
これ一犬吠を吠えて萬犬
を告ぐるものである。今日
考へ出されたものではある
まいか、然しながら、多く
の人は宣傳で成功し、また
宣傳で失敗して居るのであ
る。故に犬の如く吠へて満
足するよりは、人となりて
不満足するに如くはない

もて成立せる理想及び風
習と一變せる經濟的及び社
會状態によつて醸成せられ
たところの新しい理想及び
風習とは常に争闘を續けて
ゐるのである。一時代以前
の兒童に指示された目的及
び理想は、當時のやうに今
日ではもはや全く適合しな
やうな考へ方は、又大多數
の人々の意見となつてゐる
のである。

愈々開業!!
永らくお待ちをいたしましたから何卒
本日より開店いたしましたから何卒
たびいきにわががひいたします。

共濟醫院

院長 長谷川 久喜
電話 一四六番

歳暮福引付大賣出し

十二月三十日ヨリ
お買上二圓毎に...

吉田眼科醫院

平町紺屋町電話六八番

阿部石炭店

電話三七七番

眼鏡

最新式レンズ
各種製法

